
目次

.....

【1】 --- 教員コラム第 20 弾 第 2 回「読書と育心」皮膚科学 / 福本 毅

.....

【2】 --- [11/27(金)]サエキけんぞう氏特別講演会 参加者募集中

.....

【3】 --- Koto Square に個室ブースや座席追加、アート作品展示替え

.....

【4】 --- [7/24(金)開催]本学向け EndNote 講習会

.....

【5】 --- 新しい図書が 72 冊入りました

.....

【6】 --- <予告> 令和 8 年度第 2 回企画展示<急に具合が悪くなる>展

.....

[Book Review] ・ ・ ・ 編集後記にかえて

【1】 --- 教員コラム第 20 弾 第 2 回「読書と育心」皮膚科学 / 福本 毅

.....

振り返ってみると、私の思春期は日本文学とともにあった。海外文学の名作にも挑戦したが、不思議と最後まで読み通せないことが多かった。一方で、太宰治、芥川龍之介、夏目漱石、そして後年の村上春樹の作品には自然と惹かれた。翻訳を介して読む物語よりも、日本人作家が紡ぐ日本語そのものが持つ独特の響きや余韻、そして作家自身の人生観や哲学に魅力を感じていたのだと思う。

私なりに感じる太宰治の作品には、人間の弱さや不器用さが率直に描かれている。どこか破滅的でありながら、人間への深い共感がある。芥川龍之介は、人間の内面に潜む不安や矛盾を鋭く描き出す。夏目漱石の作品には近代社会の中で自我と向き合う知性があり、村上春樹の作品には現実と非現実の境界を漂うような独特の世界観がある。思春期の私は、それぞれの作品に描かれる人物たちの姿に自分自身を重ねながら読み進めていたように思う。

もちろん、当時の私がそれらの作品を深く理解できていたわけではないし、今もその深遠な思索を十分に汲み取れているとはいえない。しかし、登場人物たちの葛藤や希望に触

れることで、「人生とは何か」「人はなぜ生きるのか」といった問いを自分なりに考えるようになった気がする。

実のところ、高校時代の私は当初から医学部を志望していたわけではなかった。文学作品を読みながら人生について思いを巡らせ、自分は何を学び、どのような生き方をしたいのかを模索していた。その過程で、人間という存在そのものへの関心が強くなり、人を理解し、人の役に立つ学問として医学を学んでみたいと思うようになった。今思えば、文学作品を読むことは知識を得る行為というより、自分自身について考えるための時間であり、自分の感覚や価値観を形づくることに繋がったのかもしれない。そして、遠回りに見えたその時間が、結果として私を医学の道へ導いてくれた。

医学の道に進んでからは、読むものはもっぱら論文となった。現在も日々目を通すものの多くは科学論文や専門書である。しかし、患者さん一人ひとりの人生に向き合う臨床や、未知の現象を探究する研究において、人間そのものへの関心は欠かせない。その関心の原点の一部は、若い頃に読んだ日本文学の中にあったのではないかと、この原稿を書きながら改めて感じている。

私にとって図書館は、単に知識を得る場所ではなく、本との出会いを通して、自分の世界を広げ、自分自身と向き合う場所でもある。これまでに出会った一冊一冊が、知らず知らずのうちに今の自分を形づくってくれた。これからも専門書だけでなく、時には書架の間を歩きながら、自分の感性を揺さぶる一冊との新たな出会いを大切にしていきたいと思う。

※過去の教員コラムは、[こちら](#)です。

【2】 --- [11/27(金)]サエキけんぞう氏特別講演会 参加者募集中

.....

アーティスト・作詞家のサエキけんぞう氏を招き、ビートルズの音楽的功績やバンド音楽を普遍的な単位に位置付けた影響についてお話いただきます。また、フォーク・クルセダーズなど、日本のバンドへ与えたとんでもない影響について解説いただきます。

「ビートルズと若者革命の時代」

<開催日時> 2026/11/27 (金) 14:00

<会場> 京都府立医科大学図書館ホール

<定員> 先着 250 名（事前申込が必要です）

<参加費> 無料

<申込方法> 申込フォーム <https://forms.gle/jToforZ2dZRQSqaT6>

1 回のお申込みで 2 名まで受け付けます。

お申込みをいただいた方に、附属図書館から聴講券を返信いたします。

<サイン会> 講演後、サエキけんぞう氏グッズの販売と購入者及びご著書ご持参の方
を対象としたサイン会を行います。

<主催> 京都府立医科大学附属図書館

<チラシ> [こちら](#)

<サエキけんぞう氏 プロフィール>

1980 年ハルメンズ「ハルメンズの近代体操」でデビュー。1986 年パール兄弟「未来はパール」で再デビュー。2023 年ソロ盤「スシ頭の男」でフランスデビュー。作詞家として、沢田研二、モーニング娘。、サディスティック・ミカ・バンド他多数に提供。

著書「歯科医のロック」他多数。2012 年春「ロックとメディア社会」ミュージックペンクラブ賞受賞。最新刊「はっぴいえんどの原像」2025 年 11 月パール兄弟「ぼくらはここに
いる」リリース、ゲスト小室哲哉。2026 年 10 月 3 日（土）パール兄弟 LINE キューブ渋谷（渋谷公会堂）でコンサート。毎週土曜日朝 6 時 14 分 NHK AM ラジオ「サエキけんぞうの素晴らしき 20 世紀ポップ」放送中。

【3】 --- Koto Square に個室ブースや座席追加、アート作品展示替え

.....

附属図書館 1 階ラーニングコモンズ「Koto Square」に、個室ブース・ハイソファ席・テーブル席を追加しました！連日満室で大人気の個室ブースは 3 室→5 室に！リラックスエリアの座席も増え、利用する皆さんを待ち構えています。

これは、今年 2 月から 3 月にかけて実施したクラウドファンディングによる、機能充実の第 1 弾です。皆様の温かいご支援、誠にありがとうございます。

また、7/7 から、ブレイクエリアに新しいアート作品を展示しています。ちゃーみ。さんによるイラストは、鼻歌を歌うサンマや三味線を弾くワニなど、ユニークな作品で、勉強空間を明るく彩っています。図書館で涼みながら、作品を鑑賞してみてもは？！

【4】 --- [7/24(金)開催]本学向け EndNote 講習会

.....

本学で利用できる [EndNote online\(basic\)](#) について、提供元ユサコ（株）の講師による本学向けオンライン講習会を開催します。

EndNote online(basic)は、文献情報の検索、保存・共有、論文作成の支援・引用を行うツールです。ぜひご参加いただき研究活動にお役立てください。

◆開催日：2026/7/24(金)16:00-17:00

◆対象者：本学所属の教職員・大学院生・学生（北部医療センター含む）

◆参加方法：[こちら](#)。事前登録制。

◆チラシ：<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/webservice/files/42146.pdf>

【5】 --- 新しい図書が 72 冊入りました

.....

図書館本館に各教室推薦のシラバス図書 72 冊が入りました！

「[標準整形外科学 第 16 版](#)」

「[今日の助産：マタニティサイクルの助産診断・実践過程 改訂第 5 版](#)」

など最新版。ただいま図書館ロビーにて顔見世中！

図書の貸出期間は、2 週間 5 冊まで。ですが、ただ今夏休み期間！8/27(木)までに借りると、9/10(木)まで貸出期間が延びます。図書館の所蔵資料や貸出状況は [Mecke](#) で検索、確認できます。新しい資料、どうぞご利用ください。

【6】 --- <予告> 令和 8 年度第 2 回企画展示<急に具合が悪くなる>展

.....

■期間：2026/7/31(金)～9/6(日)

■場所：附属図書館 1 階 特設展示コーナー

5 月にカンヌ国際映画祭で上映され、主演 2 人が女優賞に輝いた「急に具合が悪くなる」。原作は、病を抱えて生き抜いた哲学者の宮野真生子さんと、医療現場のフィールドワークを重ねる人類学者の磯野真穂さんによる往復書簡をまとめた同名の本です。映画は原

作と設定が大きく違いますが、「生きるとは?」「死との直面」などを考える部分は原作に通底しています。今回の企画では、原作の参考書籍、映画に出てくるユマニチュード関連本、急に具合が悪くなった時の医療書などを展示します。

[Book Review]・・・編集後記にかえて

.....

安沼保夫著『警察官のこのこ日記』（三五館シンシャ 2025 年）

「派遣添乗員ヘトヘト日記」や「電通マンぼろぼろ日記」「精神科医おどおど日記」等、何れも現実の厳しさと理不尽さの嘆きなど、愚痴を交えた裏話が満載のシリーズの一冊である。

警察学校では、教官や助教に「いいえ」と言えるのは「辞めるか?」と聞かれた時だけ。かくして超縦社会に見事なイエスマンが誕生する。体罰は犯罪!と取り締まる警察で、その学校では教官らから日常的にビンタが飛ぶ。そして 教場（クラス）では、元気で要領のいい体育会系を頂点にいつの間にか カースト制が出来ている。日々ビクビクしていた教官からの平手打ちも、卒業の頃には すっかり慣れてしまう。卒後、職務に就いたら 110 番は鳴りやまず。下着泥棒の被害者女性には、色・形状・値段は?と、事細かに聴取しなければならない。こういう事は婦人警官が担当かと思いきやそうでもないらしい。聴く方も訊かれる方も大変である。機動隊、留置場係、配属が変わる度に苦労も変わる。どんな職業も外から見てるだけでは分からない。

次は「葬式坊主なむなむ日記」を借りようとしたら、181 人待ちだった…なかなかの人気シリーズのようだ。(A.M.)(京都市中央図書館所蔵「[K-Libnet](#)」で貸出が可能です)

KPUM Library Booklog : <https://booklog.jp/users/kpumlib>

この本のページ : <https://booklog.jp/item/1/4866809434>

.....

図書館メール News574 号 2026.7.23 発行（隔週木曜日発行）

編集・発行：京都府立医科大学附属図書館

library@koto.kpu-m.ac.jp

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/>

.....

(図書館メール News のバックナンバーはこちらから↓)

<https://www.kpu-m.ac.jp/k/library/web service/mailnews.html>